

H23. 6. 11

支援し続けることの大切さ



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
 東京医大卒業後、大阪大第二内
 科入局。平成7年、尼崎市で「長
 尾クリニック」を開業。外来診療
 から在宅医療まで「人を診る、総
 合診療を目指す。医学博士。労働
 衛生コンサルタント。52歳。プロ
 グ (http://www.nagaoclinic
 .or.jp/doctorblog/nagao/) が好評。



東日本大震災特集⑦

今日で震災からちょうど3
 カ月。私の周りでは、何事も
 なかったかのように日々が流
 れていきます。永田町は政治
 ゲームに明け暮れ、被災地は
 無政府状態にあきれかえって
 います。

被災地は厳しい現実に向き合
 っています。

一方、阪神大震災すらまだ
 終わっていません。今でも家
 族を失った悲しみに沈む人、
 二重ローンに苦しんでいる人
 を何人か知っています。多分、
 永遠に終わらないのです。

そんな中、今回の東北をど
 う受け止めたらいいいのか。ま
 ん

宮城県南三陸町は、いまだ
 「水」がない。川で洗濯して
 います。福島県相馬市の学校
 では、プリント用紙が不足
 しています。悲劇的な避
 難、一時帰宅が報道され、

記録映画「無常素描」が公開

ご協力頂いた相馬市への震

ずは二次被害を出さないこと
 です。仮設住宅では孤独死、
 自殺を防ぐ。今後、東北の地に
 必要なのは医者より弁護士さ
 ん。外部からの「見守り隊」に
 より支援することでしょう。

あるいは高齢者を1カ所にと
 集めるのではなく、若者、子
 供も混じった仮設住宅にす
 る。できれば、ボランティア
 へのスペースも確保されてい
 ればありがたい。仮設ではな
 く、最初から簡易な恒久住
 宅、恒久アパートもいいと思
 います。

災孤児条例への寄付もおかけ
 さまで1億円を超え、目標の
 2億円が視野に入りました。

既に支給されています。今
 後、これを良い前例にし、顔
 の見えるピンポイント義援金
 をあちこちで続ける必要があ
 ります。

さらに物質的支援のみなら
 ず、精神的支援も大切です。
 特に子供たちのメンタルケア
 は最重要。被災した子供たち
 は立派な大人になるでしょ



玄侑宋久(げんゆう・そうきゅう) 福島県
 三春町の臨済宗福聚寺の住職。小説家、東日本
 大震災復興構想会議委員。平成13年、「中陰の花」で
 第125回芥川賞を受賞。「禅的生活」など著書多数。

う。まさに日本の宝。だから
 彼らへの支援は最優先です。
 兵庫からも熱いメッセージを
 贈り続けましょう。

私が8日間、被災地を訪れ
 たとき、背中には常にカメラ
 が回っていました。介護を描
 いた映画「ただいま それぞ
 れの居場所」の監督である大
 宮浩一氏が私に密着・同行し
 ました。

その記録映画が完成、先日
 試写会で見てきました。タイ
 トルは「無常素描」。「無常」
 という言葉は、玄侑宋久さん
 と私の会話で出てきた言葉で
 す。船を失った漁師さん、畑
 が塩害にやられた農家の方の
 言葉にも静かに耳を傾けてく
 ださい。

私はほんの少ししか登場し
 ませんが、みんな私に向かっ
 て話しています。解説もテロ
 ップも音楽も何もない、ただ
 そのままの姿を収めただけの
 地味な映画です。17日から東
 京オーディトリウム渋谷、7
 月2日から大阪十三シアター
 でも応援し続けましょう。

この映画や報告会は、東北
 に行けない方に実情を報告
 し、長期的支援の在り方を考
 えることが目的です。今月は
 大阪で河内音頭を踊りながら
 大阪人の思いを届けるイベン
 トにも参加し、エールを送り
 ます。配られない義援金に無
 力感を覚える人も多いでしょ
 う。放射能や舞いあがる粉塵
 にボランティア活動を躊躇す
 る人も多いでしょう。しか
 し、勇気を出して行動を起こ
 し、支援を続けてください。
 東北人のおかげで、おいしい
 お魚や野菜を食べてきまし
 た。東北という豊かな土地、
 人々の復活を兵庫の力で少
 し

ひょうご